

1 令和4年度行政評価(令和3年度実施分)に係る宝塚市行政評価委員会からの答申について(報告)

【報告】 企画経営部

【質疑等】

- ・ 各施策の評価結果欄の財源確保や協働に関する考え方等について、どう受け止めたらいいいのか悩んだ部分があった。特に協働における市民の自発的行動を善意と表現されているように思われるが、協働のまちづくりとの整合は取れているか。

⇒ 善意という表現については、例えば美化運動について、今後高齢化が進行する中で、引き続き協働を継続していくためには、市民の自発的な活動に頼るのではなく、様々な団体等を巻き込む仕組みが必要ではないかという指摘であり、協働のまちづくりを否定しているものではない。

ただ、答申の評価を簡潔な文章でまとめていくことに非常に苦労したのは事実である。委員長も真意が伝わるかどうかについては気にかけており、答申前に各部局と文言については調整したつもりだったが、調整の難しさを改めて感じた。

- ・ 指標について、行政の活動がわかるような評価指標とするようにとの指摘があるが、これは活動指標でよいという意味か。総合計画で成果指標を設定してきたことと整合するのか。

⇒ 委員からは、外部要因が多いものを成果目標として設定すれば、行政の施策の効果、頑張りが見えなくなるのではないかと指摘があった。こうした指摘を委員会で受ける中で、事務局としても考え方が変わってきた経緯があり、今後、指標のあり方も変えていく必要があると思っている。

- ・ 答申が出る前に、担当部と意見交換する時間をもう少し作るべきではないか。

⇒ 答申案を各部に事前に確認いただき、それに対する意見等について照会を行った。

- ・ 指摘事項が具体的にどの事業のどの部分のことを言っているのか分かりにくいので、もう少し分かりやすくした方がよい。

- ・ 行政評価委員会には、基本的に室長が説明者として出席しているが、委員会の議論を聞いて、事業内容を詳しく分かっている職員を参加させないといけないのではないかと感じた。

- ・ 現在、関係課に照会されている評価結果に対する見解欄については、公表される予定か。

⇒ どういう形で公表されるかは未定だが、今後外に出ていく予定はしている。

- ・ 委員会の時間には限りがあり、十分に担当課の真意が伝えきれない場面もあった。もう少し時間を掛けるなど、事務局の手助けも必要ではないか。

⇒ 真意が伝わらず、いただいた評価が施策の改善に結びつかないことはあってはならないと考えている。ご意見も踏まえ、委員会の進め方については毎年進化させていきたい。

2 本市における審議会等への女性の参画状況について

【提 案】 総務部

【結 果】 承認

【質疑等】 なし